

評価者	教育部長	佐々木 聡
-----	------	-------

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針	多様な学習機会の提供と学習成果の活用
目標とすべきまちの姿	大学や高等学校、地方公共団体、NPO法人など民間事業者を含む生涯学習関係団体との連携により、多様で効果的な学習プログラムが市民に提供され、すべての市民が、生涯のいつでも、等しく、自由に学習機会を選択して学ぶことができます。 また、その成果が適正に評価され、さまざまな形で生かすことのできる生涯学習社会が実現しています。子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が地域での学習に取り組み、そのなかで多様なコミュニティが形成され、地域が主体となって生涯学習を推進しています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度 (2018年度)	36.2%	平成29年度 (2017年度)	36.9%	平成28年度 (2016年度)	34.3%
	平成27年度 (2015年度)	24.9%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	2.1%	0.7%	0.2%
	ちょうどよい	1.3%	39.5%	1.3%
	効果不十分	3.8%	1.7%	9.1%

平成30年度
(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	1.9%	0.7%	0.5%
	ちょうどよい	2.1%	36.7%	0.9%
	効果不十分	4.2%	2.3%	8.4%

平成29年度
(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	3.0%	1.4%	0.2%
	ちょうどよい	1.4%	40.0%	1.2%
	効果不十分	3.2%	2.7%	8.2%

平成28年度
(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	1.4%	1.0%	0.0%
	ちょうどよい	2.4%	37.1%	1.3%
	効果不十分	4.3%	4.4%	8.3%

平成27年度
(2015年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	15.2%	37.7%	6.8%	40.3%
平成29年度(2017年度)	13.7%	36.0%	8.3%	42.0%
平成28年度(2016年度)	13.9%	40.3%	6.9%	38.9%
平成27年度(2015年度)	14.9%	37.9%	7.9%	39.3%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

写生大会を、新たな場所で開催する。(教育-09)
 放課後子ども教室実施の稲村ヶ崎小学校及び今泉小学校両校において、なつの学習教室を夏休み期間に実施する。また、深沢小学校(6月)及び関谷小学校(12月)での放課後子ども総合プランの実施に合わせ、放課後子ども教室の開催について整備、支援を行っていく。(教育-10)
 鎌倉市生涯学習推進委員会による事業の実施及び大学等との協働による公開講座を実施し、学習機会の充実に努める。(教育-11)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

写生大会の場所は、市内の名所旧跡、神社仏閣を知る機会の提供が行えるとともに、学習機会につながるものである。(教育-09)
 地域の特色を生かしながら、子どもの居場所づくりなど、交流できる学習交流の機会などを通じ、地域が主体となった生涯学習の推進につなげていける。(教育-09、10、11)
 多様な学習プログラムを実施することで、すべての市民が、自由に学習機会を選択することができる。また、大学等との協働による公開講座を実施することで、幅広い年代の方々が地域の中で多様なコミュニティを形成し、生涯学習を推進することができる。(教育-09、10、11)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
		平成30年度 (2018年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)		事業 内容	予算 規模
教育-09	社会教育運営事業	4,390	4,969	12,234	17,448	1.0	1.5	無	b	B
教育-10	放課後子ども教室運営事業	1,355	1,334	8,415	7,730	0.9	0.8	無	d	-
教育-11	生涯学習センター推進事業	14,335	14,971	24,533	18,302	1.3	0.7	無	a	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】
 放課後子ども教室運営会議を教室ごとに実施し、放課後子ども教室を実施するとともに、教育活動サポーターの安全研修会を実施した。(教育-10)
 市民団体である鎌倉市生涯学習推進委員会に委託して、各種講座・イベントの開催や生涯学習情報誌「鎌倉萌」の発行、生涯学習教養セミナー等の生涯学習事業を実施した。(教育-11)

【実施できなかった事業とその理由等】
 写生大会は、新たな場所として鎌倉海浜公園での開催を予定していたが、気象庁から高温に関する異常天候早期警戒情報が出され、高温が予想されたため、参加される方の安全を考慮し、中止とした。(教育-09)

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	適切	要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	適切	要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	適切	要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	適切	要改善

< 上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等 >

・放課後子ども教室における総事業費の約9割は、実際に事業を行うのに必要となるコーディネーター、教育活動推進員等の謝礼であり、最低限の事業費により事業を行っていることから、効率性を適切と評価した。(教育-10)
 ・流鏝馬鑑賞、公開講座等、各種団体と連携することにより、多様な学習プログラムを提供することができた。「子どものためのウインターコンサート」は定員を超える希望があり、「かまくら子どもコンサート」も芸術館小ホールが満席になるなど、市民ニーズに応じた事業を提供することができた。このように、事業によっては大きな効果が得られているものがあるものの、市民意識調査における認知度が低いことから、取組内容等の見直しが必要と考え、妥当性及び有効性について、要改善と判断した。(教育-09、11)
 ・鎌倉市生涯学習推進委員会に委託して実施している各種講座について、より幅広い年代等に提供ができていないのかを検証する余地があるため、公平性を要改善と判断した。(教育-11)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

写生大会においては、安全面に配慮した形での開催を検討する。コンサートにおいては、親子による体験学習等として実施しているが、さらに企画を工夫をし、より良い活動になるよう努めていく。(教育-09)
 放課後子ども教室は、現在行われている2校の内容の充実を図るとともに、放課後子ども総合プランを視野に入れ、青少年課と連携し、事業の拡充を図っていく。(教育-10)
 鎌倉市生涯学習推進委員会による事業の実施及び鎌倉女子大学との協働による公開講座を実施し、学習機会の充実に努める。(教育-11)

(7)令和元年度(2019年度)の目標

家庭教育の一環として、鎌倉の未来を担う子どもたちの成長のため、引き続き写生大会・コンサートを実施するとともに、さらなる事業展開に向け、検討を行う。(教育-09)
 稲村ヶ崎小学校及び今泉小学校で実施している放課後子ども教室については、充実したプログラムを提供するとともに、令和2年度(2020年度)からの放課後子ども総合プランとしての実施に向け、こどもみらい部への円滑な移管を行う。(教育-10)
 鎌倉市生涯学習推進委員会による事業の実施及び大学等との協働による公開講座を実施し、学習機会の充実に努めるとともに、現在講座に参加していない人のニーズ把握の方法を検討する。(教育-11)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

写生大会やコンサートは、市内の名所旧跡・神社仏閣への触れ合いや親子による体験学習の場となり、学習機会につながるものである。(教育-09)
 地域の特色を生かしながら、子どもの居場所づくりなど、交流できる学習交流の機会などを通じ、地域が主体となった生涯学習の推進につなげていける。(教育-09、10、11)
 多様な学習プログラムを実施することで、すべての市民が、自由に学習機会を選択することができる。また、大学等との協働による公開講座を実施することで、幅広い年代の方々が地域の中で多様なコミュニティを形成し、生涯学習を推進することができる。(教育-09、10、11)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-09	事業名	社会教育運営事業					備考	
指標の内容	3回の主催事業の参加人数 (子どものためのウインターコンサート、かまくらこどもコンサート、写生大会)					単位	人	指標の傾向	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	平成28年度(2016年度)及び平成30年度(2018年度)は写生大会が中止のため、2事業の値。	
子どもに対するより多くの学びの機会の提供	目標値	750	750	750	750	750	750		
	実績値	775	995	765	987	749			
	達成率	103.3%	132.7%	102.0%	131.6%	99.9%			
整理番号	教育-10	事業名	放課後子ども教室運営事業					備考	
指標の内容	稲村ヶ崎小学校、今泉小学校での教室参加児童数					単位	人	指標の傾向	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
プログラムの充実	目標値	1,200	1,800	1,900	1,900	1,900	1,900		
	実績値	1,763	1,932	1,982	2,188	1,908			
	達成率	146.9%	107.3%	104.3%	115.2%	100.4%			
整理番号	教育-11	事業名	生涯学習センター推進事業					備考	
指標の内容	学習センター利用者数					単位	千人	指標の傾向	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	耐震改修工事による施設の一部使用休止のため、目標値を変更した。	
生涯学習の振興状況を計るため	目標値	580.0	585.0	590.0	595.0	600.0	285.0		
	実績値	627.0	560.0	535.0	539.0	473.0			
	達成率	108.1%	95.7%	90.7%	90.6%	78.8%			

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・鎌倉市民の特性を考えた時、行政が多様な学習の機会の提供をする必要があるのか。認知度の低さからも考え直す時期である。

・「目標とすべきまちの姿」と実施事業との関連性が不明確である。

・社会教育運営事業が「写生大会」だけでよいのか。

指摘への対応、コメント等

・目標とすべきまちの姿の実現に向けた事業展開のため、市民ニーズ等も踏まえながら、検討をしていきます。

・目標とすべきまちの姿との関連性が明確になるよう、実施事業を位置付けていきます。

・他に、委託事業として「ウインターコンサート」「がまくらこどもコンサート」を実施しています。民間事業者が事業主体である方が効果的と考えられるものは委託化するなどして対応し、社会教育行政として取り組むべき事業を今後検討していきます。

提言

・稲村ヶ崎小学校、今泉小学校のいずれも登録者並びに参加者が増加している。放課後子ども総合プランへの円滑な移行が望まれる。

・指標の「学習センター利用者数」は施設全体利用者数と推察するが当項目では「学習機会の提供者数」を用いて、その推移を追うべきである。

・そもそも、「多様な学習機会」自体、20～50代くらいの働く世代の市民にはどの程度ニーズがあるのか。またニーズのある分野はどんなものなのか、講座の内容により一層の工夫が必要なのは、加えて、これらが自治体として提供する必要があるのかも検証するべき。

提言に対するコメント等

・放課後子ども総合プランへの円滑な移行ができるよう、関係者を始め、関係部署等との調整・協議を行っていきます。

・自由に学習機会を選択して学ぶためには、市が委託して学習センターで実施する講座・イベントの参加者数の他、市民等が自主的学習や自己研さん等を目的として開催する事業への参加者数を捉えて、その推移を追っていくべきと考え、指標設定をしています。

・働く世代のニーズは、勤務地近隣に学習の場を求める傾向が強く、ニーズのある分野は、国際、語学への関心が高いと分析しています。行政が地元での学習機会を提供することは、後年地域を支える人材になっていただくことに結びつく効果もあるものと考えています。

質問

・「成果の評価」及び「コミュニティの形成と地域主体」の事業は行われているのか？

・何をもって「適切」や「妥当」と判断しているのか？

質問に対する回答

・年間を振り返り、成果の評価を実施しています。また、地域主体の事業としては、各学習センターで学ぶ団体等が主体となって、生涯学習フェスティバルを開催しています。

・実施内容に位置付けた事業の参加者数が増加している状況を捉え判断したが、全般的には検証等をしていきたいと考えています。

多様な学習機会の提供と学習成果の活用

評価できるところ

- ・子どもたちの居場所づくりの充実を図っていること。地域の方が昔遊びを教えたり、地域のつながりがありよい活動であると評価できる。
- ・鎌倉市生涯学習推進委員会と協働し、各種講座の企画実施を行うとともに、大学等と連携している。
- ・取組の評価が適切に行われている。改善を要する点の具体的内容も理解でき、今後の期待される。
- ・「取組の評価」で効率性を除く妥当性・有効性・公平性をいずれも「要改善」として、前例踏襲主義ではない今後の新たな展開に期待したい。
- ・子供たちに鎌倉ならではの学習プログラムを提供している点は、評価できる。

		評価の内訳		
取組		1	0	7
効果		0	0	- 8

委員会の評価
-

課題

- ・生涯学習センターの運営が生涯学習推進協議会に委託していることはよいものの、内容的な検証や、経年にもなう改善などが不明で、進行管理も必要。
- ・生涯学習の成果をフィードバック、本当にできているかが疑問がある。
- ・昨年度に引き続き、「幅広い年代」への展開がまだまだであると感じる。
- ・「働く世代のニーズは、勤務地近隣に学習の場を求める傾向が強く、ニーズのある分野は、国際、語学への関心が高いと分析しています。」とあるが、それらのニーズに対応しておらず、事業内容が全て前例踏襲であり、新たな取組が検討・実施されていない。

提言

- ・生涯学習センターの運営が生涯学習推進協議会に委託していることはよいものの、受講者層が高年齢に偏り傾向があり、幅広い年代へ対応できるような内容への充実につとめてほしい。
- ・多様な市民に対してあらゆる学習機会を提供することは事実上困難である。「生涯学習センター」のポジショニングを再検討するために、センター利用者ではなく「一般市民のセンター期待ニーズ」を調査する必要がある。
- ・生涯学習推進委員会が実施している講座等の実績を指標にすべきである。委託事業の成果が評価出来ない。
- ・稲村ヶ崎小学校、今泉小学校のいずれも登録者並びに参加者が増加している。放課後子ども総合プランへの円滑な移行が望まれる。
- ・学習センターで開催される講座に興味を引くものがあまり見られない。幅広い年代に提供できるよう考えてほしい。

質問

- ・目標に「大学との協働による公開講座を実施」とあるが、結果に記載がない。理由は何か？